

トリ目・ウオの目・おか目はち目⁸²

「栄えある叙勲・陰の美德」



福岡女学院大学客員教授

齋藤裕三

☆

世の中は 三日見ぬ向のイラクかな
 アッサラーム・アライクム！ サダム・フセイン大統領様、生きていらっしゃるならアララーの名において真剣に答えて！
 イラクには、本当に「大量破壊兵器や

「生物化学兵器はないのですか？」

3月20日、遂に米英軍のイラク攻撃が始まった。今回も、最大の被害者は罪なき民衆、そして幼い子どもたちであることが痛ましい。

筆者が子どもの頃（戦前）、元氣よくこんな歌を歌った。

刃物の豊勝

新天阿

僕は軍人大好きよ、
 今に大きくなった
 なら、勲章下げて剣下げて、おつ
 まに乗ってハイドワードウ

そついえば、壇上にキラ星のように並ぶ某国の軍人さんも、胸いっぱい勲章……。こどもと同じだ。軍服が重みで裂けるのでは、とか、そんなにたくさん何の勲功？と考えるのはいらぬお世話。

勲章といえは、国家公務員上級職を定年まで勤め上げ、70歳を過ぎると慣行として「勲四等」という勲章を授与されるそつな。

もちろん、一般の方や上級職でない公務員でも、いろいろな方面で功績のあった方々が毎年叙勲されている。

だが、オリンピックの金、銀、銅メダルや文化勲章ならともかく、われわれ戦争世代には「金鷄勲章」のように、勲章は戦死したら授かるものというイメージがあつて、「勲章」というものに、複雑な思いを持っていることも否めない。
 われわれも、早いもので遂に叙勲の年

齢である70歳を過ぎた。高校（県立福岡高校）の同級生の中で、公務員上級職として中央省庁に入った建設省出身のI君、防衛庁出身のF君、法務省出身のH君が、昨年秋国家への功労を認められ、勲四等を受勲した。民間では弁護士のY君も。

実は筆者も運輸省（現国土交通省）に上級職で入省したのだが、6年後にJALに移籍したのでもちろん対象外。例えそままたとしても、「功績を認めず」として叙勲者から外されたことは必定。

叙勲のセレモニーは、天皇陛下のご臨席のもとに行われるので、出席の準備が大変だったらしい。

ご本人の礼服や、ご夫人の晴れ着の新調、絶対に遅刻欠席しないように、近くのホテルなどで前泊の手配、お世話になった方々に配る記念品の注文など、もちろん有料だが、みな下請け業者がやってくれるそつだ。でも一仕事である。

おもしろいことに本人がまだ叙勲確定を知らないのに、業者からの勧誘が舞い込むといつ。

近年、叙勲が「官尊民卑」である、といつ批判の声が次第に強くなつてきた。

しかし、英語の勲章にあたる語の「order」（階級、地位）でもわかるように、近世ヨーロッパでは、勲章を授かるといつことは、宮廷で支配階級に加えられる

フラワーズ

Q キュータネ **Yane**

九州種苗株式会社

本社 〒812-0061 福岡市東区筥松新町1番11号
 TEL(092)621-2100(代) FAX(092)623-4110番

キュータネ・インタラス(川端店)
 TEL (092)281-0917番
 FAX (092)281-9015番
 キュータネ・マリアハウス(藤不孝通店)
 TEL-FAX (092)734-0008番
 キュータネ・グリーンテラス(筑紫野店)
 TEL (092)928-5055番
 FAX (092)928-5530番

贈ります。博多の心。—

博多人形
博多織

増屋

博多上川端商店街 ☎(281)0083番
 天神地下街店 ☎(771)1070番

と言つたことを意味し、胸に着けることは、その名誉を示すことだった。

日本の叙勲制度も、明治時代、ヨーロッパに倣ったものである。1875年4月10日発せられた「太政官布告第54号」の〈勲等勲章の制〉の意義は、同日付の詔勅にあるように、「凡ソ国家ニ功ヲ立テ績ヲ顕ス者宜ク之ヲ褒賞シ以テ之ニ酬ユベシ」ということで、もともと勲章は官尊民卑を建前としているのである。

これまでも、尾崎行雄、木戸幸一、賀屋興宣、徳富蘇峰、白鳥敏夫その他多くの方々が、それぞれの考えに基づき、叙勲を辞退されたことが知られている。

勲章というと、名誉や誇りの象徴で、神聖なもののように思われるのだが、こんなおもしろい話もある。

英国のもっとも古くて有名な勲章に、ガーター勲章というのがある。1347年にフランスのカレー市占領祝賀会のダンスの最中、女官が靴下止めを落としたり、それをエドワード3世が拾って自分の膝につけたのが起源だという。ああ愉快！それはともかく、他でもないわれわれの同級生たちの叙勲を、心からお祝いしよう。4君ともほんとうにおめでとう。

さてここで、われら叙勲の栄に浴びた

刃物の豊勝

新天町

かっただ側の話もしないといふと不

平になる。民主主義的に言えば多数派なのだから。

同じく同級生のM君は、福高ラグビー部の全盛時代に活躍した1人。後に明治大学に進学し、大学ラグビーの頂上をきわめた明大ラグビーチームの、名フオーワードとして名を馳せた。M君はいったん社会人になったため、明大に進学するのが2年遅れた。

もちろん、入学と同時にラグビー部の新入部員になった。部の合宿では、福高高校の2年後輩、ストリートで明大に入ってきたI君と同室になった。

明大ラグビー部の2年先輩には、福高時代、同級生のチームメイトとして苦楽をともにしたT君とH君の2人がいて、既に名手として、日本のラグビー界では知られた存在だった。

火が出るような激しい練習のあと、宿舎に引き揚げてくると、皆の面前で、T君とH君が汗びっしょりのジャージや汚れ物をM君とI君に投げてよこした。

先輩のジャージや汚れ物を洗い、翌日までに再び着られるようにしておくのが、後輩部員に課せられたつとめであり掟だった。

だが、さすがにもともと同級生で苦楽をともにしたM君に、自分たちの汚れ物を洗わせるのは気がとがめたのだらう。T君とH君は、あとでこっそりM君のと

ころへやってきて、M君に投げてよこした汚れ物を、黙ってI君のほうに押しや

った。一方、I君は汚れ物の山を前にして途方に暮れた。これだけの量の汚れ物を、明日の練習に間に合うように洗うなんて絶対無理だ。悩んだあげく、I君は同室のM君に言った。

「先輩、ほんとうにすみませんばってん、手伝ってください」

「よか〜」

結局、I君とM君は、2人で夜中までT君とH君たち先輩の汚れ物を洗い、翌日朝練習の間に部舎裏の排水溝の陰に、こんな涙無しには聞けない美談があったのだ。

M君は言う。

「TもHも、そげんことはなんも知らん。そーっとして。オレだけが知るとればよか〜」

M君、気持ちにはようわかるよ。ばってん殺人犯でも時効があるが……。あれからもう50年。とうに時効やろ〜もん。

叙勲の榮譽に輝く4人の友、一方で日本人の美德を忘れないM君。

筆者には、どちらにもすばらしい友人たちである。

こんなすばらしい友人たちを持ったことと体が、われわれ同級生へのかけがえのない勲章なのである。

☆

一三

CLUB AZAMI



博多区中洲4丁目1-37
TEL 代表 (281) 0417